

# 手をつなぐ

2022  
8月  
[No.798]

**特集** 夫として 父として



今月の問題 児童福祉法・障害者総合支援法の見直しに向けて (2)

ひびき 澤田智洋 (コピーライター／世界ゆるスポーツ協会代表理事)

ひとりぼっちじゃないよ [第5回] 心の声、感じた無力さ 湯浅正太

わたしたちも言いたい 私の好きなこと 津川拓也 2

毎日すったもんだ [第68回] 服装はきちんと! 5

ちいきのいいもの 第31回 水ようびのトート もみじ作業所 7

## 特集

# 夫として 父として 家事・育児をめぐるあれこれ 8

父親も同じスタートラインに立つために 田中智子 10

社会と家庭そして自分との狭間で 松井剛太 13

「脳」の違いとコミュニケーションのコツ 中本テリ 16

夫として 父親としての思い

応援し、支えてくれた妻に感謝 水崎裕久 18

自分らしく育てほしい、だから自分らしく生きる 東千秋 20

また、一緒に暮らす 三隅大輔 21

息子がいたからこそその出会い 島崎洋平 22

周囲の理解があつてこそ 石井宣匡 24

夫・父親同士のつながりをつくる 松本光彦 25

今の時代を生きる男性へ 野澤和弘 26

今月のオススメ 29

今月の問題

児童福祉法・障害者総合支援法の見直しに向けて (2) 30

ひびき

誰もが「スポーツ」を楽しめるように 澤田智洋 34

すっきり伝わる相手目線のメール・SNS その5

用件がたくさんあるときは内容の整理を 羽山慎亮 37

くらしを支える福祉の制度 第23回

知的障害のある人が「通う」場 その7 38

ニュースのじかん 41

各地の動き

公式戦出場、その先の甲子園に向かって 大久保 淳 42

中央の動き

障害者総合支援法の見直し議論が再開されました (最終回) 44

枝元なほみのしあわせごはん いち、にっ、さん! [lesson76]

夏バテ防止! トマトでお昼ごはん

### 表紙絵作者のプロフィール

■柏木真大 (かしわざ・まひろ) 12歳 ■福岡県福岡市 福岡市立福岡中央特別支援学校 ■タイトル たのしいすうじのなかまたち  
■ひとこと すうじがわらう、ねむい、にこにこ、う〜ん、たのしい、いろんなきもち。みんなに見てほしいです。

## 私の好きなこと

大阪府

津川拓也

私は泳ぐことが大好きです。

水の中はブクブク、バシヤバシヤ、水の中の音が聞こえます。  
なんか、ゆつくり聞こえます。安心します、楽しいです。

私はチームのみんなと毎日練習します。

練習をがんばります、みんなとがんばります。

練習をがんばって、大会に行つて、大きなプールでレースをします。

みんなが応援してくれます、力がいっぱい出てがんばれます。

「拓也、がんばれー！」って、うれしいです。

ベストが出たらうれしいです、金メダルがいいです!!

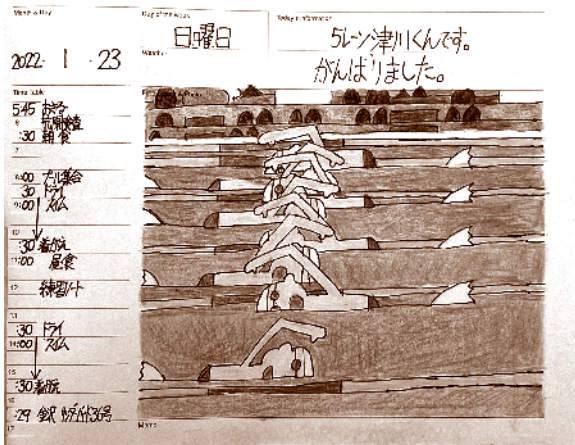
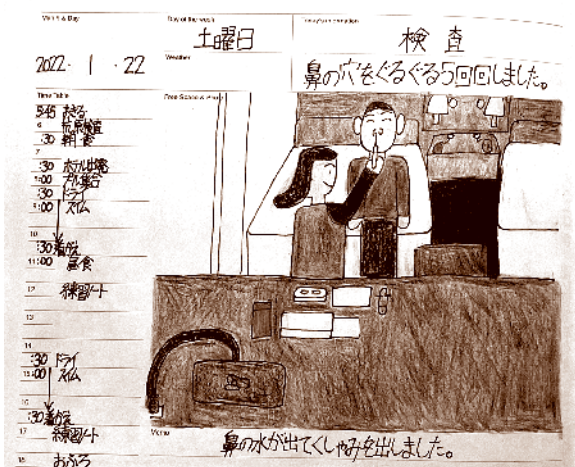
PCR検査とか抗原検査をして大会に出ます。

つばを出したり、鼻をぐるぐる回したりします。

「コロナになっていないか調べるよ」って

みんなプールに入れないので父さんと2人です。

早く、みんなとがんばれるようになるといいな。



リオデジャネイロパラリンピックで銅メダル（100m背泳ぎ）を獲得した津川さんは、昨年の東京パラリンピック大会水泳では補欠に回りました。自分の思いを言葉にするのが苦手なため、毎日付けている絵日記や日々のコミュニケーションから、ご家族が今回の文章を書き起こしてくれました。（編集部）

「拓也はおいしいものをたくさん食べるけど、泳いでいるから太らないんだね」って  
 「拓也はおいしいものを食べます、大好きです。  
 おいしいものを食べます、大好きです。  
 乗り物に乗るのは大好きです。  
 大会には飛行機、新幹線、電車、バス、タクシーで行きます。  
 早く、海外の大会に行けるようになるといいな!!  
 練習をがんばります!!

「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています（宛先は48ページ）。生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。



「そういう言葉は使わないで」  
「話すときは必ずカードを使って」 …。

子どもと自然に関わりたいたけなのに、  
NGワードや禁止行為が  
多すぎていやになる。



やっちゃダメ!

# 父として めぐるあれこれ

家族観、労働観が変化する中で、男性の家事育児の関わり方も変わってきています。一方で、仕事と家庭で求められる「像」のギャップ、自他ともに母親を子育てのキーパーソンと見る風潮、家庭や子どもの障害のことを他人に相談しづらい環境など、男性の家事育児への参画には特有のハードルがあることも事実。

仕事で活躍することも、日々の家事子育てに楽しさを発見することも、どちらも人生にインストールできる。そんな道を男も女も歩けるようになるためには何が必要なのか、男性の側から考えます。

子どものことで  
相談されたので意見を  
返したら、  
「そんなのは  
ただの正論だ!」と。  
もう、なんて答えれば  
いいのかわからない。

子どもが小さい時は  
仕事が忙しかったので  
仕方がないのだけど、  
10代になる頃には妻と子ども  
の関係ががっちりできていて、  
もはや私が入る場所はない。





洗  
え  
て  
な  
い  
よ

子どもの療育とか学校のこととか、  
家事とか、本当は役割を担いたい。  
でも、たまに代わっても後からダメ出しばかり。  
こちらが関わる隙も余地もないと感じる。

# 夫として 家事・育児を

療育センターでも親の会でも  
次々ママ友とつながり、  
いつもLINEでやりとりしている妻。

子どものことはママ友たちのほうが  
私よりよく知っている。

何日も前から準備して行った旅行も、  
出先で息子がパニックを起こして台無し。  
イライラして少し声を荒らげると、  
妻との空気も険悪に。  
どうすればいいのか…。

